

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1194600258		
法人名	ケアサプライシステムズ株式会社		
事業所名	グループホームしらかば		
所在地	埼玉県深谷市西島町2-21-11		
自己評価作成日	令和 元年 11月 12日	評価結果市町村受理日	令和 2年 2月 12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは駅から徒歩10分弱ほどの好立地にあり、静かな住宅地に囲まれております。施設内は明るくバリアフリーで車椅子の入居者様も安心して生活できる環境と設備を整えております。地域との関わりを大切にしたいと考えイベント行事には積極的に参加するよう心がけています。食事は全て手作りで家庭的な温かみのあるものを提供、お祝い事にはお祝い膳を提供したり季節の行事に沿った食事を提供しています。また、利用者様に季節感を感じて頂けるよう壁面にも力を入れ楽しい時間を過ごして頂いております。入居されている利用者様一人ひとりの暮らしや生活リズムを大切にしたいケアを心がけ、その方の意思を尊重した支援を行うよう努めております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階		
訪問調査日	令和 元年 12月 4日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

その人らしさを大切に、これまでの生活を継続できるように考え、毎朝のコーヒーや植物への水やりを継続している方がいる。職員都合のケアにならないように心掛け、その一例として「入浴もはいつでもできます。」と貼りだしている。地域との交流にも心掛け、地域の行事に多く参加している。食事は、職員が輪番で献立から考え調理しており、利用者の要望や好みが反映されている。地元のそば店・ラーメン店等から出前をとったり、ファーストフードのハンバーガー等を取り入れたりもし、バラエティーに富んでいる。おやつ作りでも、利用者の特性を活かしメニューを考え、ドーナツや水餃子など一緒に調理し喜ばれている。居室は掃き出し窓を使用しており明るく、非常時には脱出が容易でベットの搬出も可能である。廊下も広くゆったりとした空間で、天窓もあり自然光があふれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	しらかば独自の理念を考え、毎月のホーム会議で理念の唱和をしている。また、毎日のケアの実践に取り組んでいる。	法人理念に加え、事業所理念があり玄関に掲示しており、会議では唱和、振り返りを行い共有を図っている。利用者のその人らしさを尊重して、職員都合のケアにならないようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りやイベントには積極的に参加させて頂いております。	自治会には加入し、お祭りでは子ども神輿の休憩所となり交流の場となっている。自治会館で行われるサロンに参加したり、七夕まつりやパレードの見学にも出かけている。歌のボランティアの来訪があり喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議等で認知症についての勉強会を行い、ホーム会議でも月ごとにテーマを決めて勉強会を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の推進会議を開催し、ご家族様や区長さん、民生委員の方々からも意見を伺い、事業所からも活動報告や現状をお伝えし、情報交換をすることでサービスの向上に努めている。	2か月毎に年6回、家族・民生委員・地域包括支援センター職員・行政職員・法人本部職員等が参加し開催している。活動報告、予定に加え災害対策や感染症対策等について話し合われている。	より活発な会議にするためには、多数の家族や地域の多彩な人たちに参加してもらい、多様な意見を聴くことが望ましい。サービスの向上に期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には行政機関の担当者の参加もあり、情報交換をしている。	本部職員と管理者が連携を取りながら、保険者・市との関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、顔見りの関係で、空き情報の提出や体操指導者の紹介を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で統一したケアが出来るよう、ホーム会議で話し合い、事業所全体で身体拘束のないケアに取り組んでいる。	研修は年間計画に組込まれている。また月例会議でも、必ず議題に挙げて、制度や声掛け方法等を話しあっている。欠席者には、議事録を回覧し確認してもらっている。本部よりも、研修資料の配布があり、職員全員が読み込み理解に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待、言葉の虐待等全てにおいて職員間で声掛けし、虐待のないよう意識向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在の入居者様は成年後見制度を利用されている方はおりませんが、必要に応じて成年後見制度の活用ができるよう支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居の際は重要事項の説明を行い、ご家族様、ご本人の不安や疑問を尋ねご理解した上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様から日々のコミュニケーションで意見や要望をお聞きし、家族が訪問に来られた際にはその状況をお伝えしている。	年1回、アンケートを行い、集計結果を玄関に配置している。面会や電話報告時から意見等を聴いている。面会機会確保のため、利用料徴収は現金払いを推奨している。本部直通の相談ダイヤルが設けられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のホーム会議で気付きや意見をお聞きし、職員全体で話し合いの場を設け反映させている。	半年毎の個人面談や会議の場以外でも普段から意見を聞くようにしている。シフトの組換えで希望休を可能にしている。職員からの業務改善の提案が多く取り入れられている。玄関の花壇も実現したものである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年毎に各自で自己評価をして頂き、今後の目標も挙げて日々の業務に努めている。また、毎月1回は連休をシフトに組み込んだり、家庭状況に応じてシフトに無理がないよう対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や技量に応じて法人内外の研修に出来る限り参加するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡協議会に加盟して研修会等に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っていること、不安なこと、要望等を事前に聞き取り、職員間で共有してご本人様の安心を確保出来るよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が不安に思っていること、要望等を事前に聞き取り、いつでも相談していただけるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援内容をスタッフ間で検討し、必要に応じて他のサービスの利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の得意なことを活かした作業をお願いしたり、洗濯物たたみやモップ掛け等の家事を一緒に行うなど、支えあう関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来訪された際には日頃の様子を伝えている。また、ご家族様と一緒に外出してもらうなどして共に支えあい、協力して支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのご友人が来訪された際にはご利用者様とゆっくりお話ができる場所を提供している。また、以前から通っていた馴染みのお店に買い物に出掛け、関係が途切れないよう努めている。	知人の来訪があったり、外出時に元勤務先に立ち寄りしている。初詣には、地元の神社に出掛けている。顔見知りの和菓子店に出かけたり、好みの新聞や趣味の雑誌を購読している方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	カルタやゆらゆらゲーム、しりとり、言葉遊びなどを楽しまれたり、発語の難しい方や身体の不自由な方には職員が調整役になって孤立することなく支え合えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了してもご家族様からの相談を伺いフォローできるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各利用者様の日々の思いや意向を汲み取り、把握に努めている。困難な場合はご家族様からの情報も把握し検討している。	生活歴・言動・家族情報から思いや意向を把握するようにしている。情報は、介護記録や日報に記入し職員で共有している。表現の難しい方には、表情や行動から推察し、職員間で話し合い検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の暮らしぶりをご本人様やご家族様から伺い、職員間でも共有してサービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の過ごし方や様子をケア記録に記載し現状の把握に努めている。また、体調の変化や様子も職員間で抜けのないよう申し送りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のホーム会議でケアマネさんが中心となってモニタリングを行っている。職員間でケアの内容を検討し、統一したケアを行えるようケアプランを作成している。	ケア記録は、個人目標に対し、日中・夜間帯・看護記録を色分けして様子を記入し、モニタリングに役立てている。計画作成担当者は、家族、職員等の意見を反映させて作成し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録に記入し、申し送りノートも併用して情報を共有し実践への反映をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービス内容にない気づきが生じた際には、職員間でその都度話し合い検討し、既存のサービスに捉われない柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、慰問などを依頼して、各自がそれぞれ楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の定期的な往診と医療連携の訪問によって、急変時でも支援が受けられる体制になっている。往診を受けていない方はご家族様の協力のもと適切な受診ができています。	かかりつけ医、提携医と選択可能である。提携医は月2回、24時間体制である。かかりつけ医受診には、看護師、職員が情報提供票を作成している。看護師は週1回の訪問があり体調管理、健康相談を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の訪問が毎週あるため、皮膚観察や体調の変化を診て頂き、体調管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には極力面会に伺ったり、病院関係者との情報交換や相談を行い、把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合はご家族様にホームとしてできることを十分に説明し、必要に応じて医師や看護師を交えてケアの方針を検討し、チーム支援に取り組んでいる。	入居時に、重要事項説明書にて説明している。終末期には、家族・医師・事業所の三者面談を行い、方針の同意を得ている。方針変更にも柔軟に対応している。看取り経験のある看護師より、研修を行っている。終末期にも可能な限り対応する用意がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故が発生した際には速やかに看護師や管理者に報告し、連絡できる体制になっている。会社のマニュアルはあるが、職員間で技量に差が生じているため定期的な訓練をやっていききたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。また、毎日夜勤者が火気関係の自主検査をチェックしている。	年2回避難訓練を行い、うち1回は、消防署員立ち会いで助言を受けている。夜勤者による防火自主点検を欠かさず行っている。備蓄品は、期限等も確認済である。非常時の警備会社との連携が確保されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々人の人格を尊重し、プライバシーに配慮した声掛けやケアに職員全員で努めている。	個人情報書類等は、施錠した書庫に、普段使用する日報等は、離席時にはケースに収納している。申し送り時の伝達事項は、インシヤルで行っている。研修は、年間計画に組み込まれ繰り返し行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でご本人様の思いや希望を出せる時間を作り、自己決定できる環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のペースを大切にし、希望や体調に配慮して1日1日を過ごして頂けるようかけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の好みの衣服を自己決定して頂き、その日の気候や季節に相応しい衣服を着て頂いている。自己決定できない方は職員が選び確認してから着て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭的な献立を作成し、ご利用者様にも好きなメニューをお聞きし提供している。また、季節感を味わって頂けるようイベント食やお祝い膳も提供している。	職員が献立から考え調理するため、利用者の好みが多く取り入れられている。台所に一緒に立つ利用者もいる。季節のお節料理やおはぎの提供がある。地元のそば店・ラーメン店からの出前をとることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量を確認、把握して適量を提供している。水分量は1日を通じて最低1ℓは確保出来るよう測定している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けをし口腔ケアをして頂いている。やり方が分からない方には説明や一部介助、全介助をして対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録し、一人ひとりの排泄パターンに合わせて声掛けを行っている。オムツの方は漏れないような当て方を工夫し、使用を減らせるよう努めている。	排泄チェック表を利用し、トイレでの排泄が行えるよう支援している。場所を分かり易くするため張り紙や横出し看板を出している。夜間は、時間で誘導したり、ポータブルトイレ対応している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防食物繊維を多く含む食材を取り入れたり、乳製品や水分の摂取に努めている。入浴時にはお腹周りのマッサージをして頂いたり、適度な運動を行うよう働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでも入浴できる体制作りをしている。基本的には各自が均等に入浴できるよう曜日を設定しているが、当日対象者が体調不良や外出・外泊等で入浴出来ない際は入れ替えをし柔軟に対応している。	基本週2回、希望によりいつでも入浴できる。拒否の強い方には時間や声の掛け方、職員を替え対応している。好みの石鹸・シャンプーを利用している方もいる。浴槽は、3方向から介助可能のものである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて自由に休息できるよう支援を行っている。季節に合わせて居室の温度や寝具を調整し、安心して眠れるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の情報を保管し、職員がいつでも確認出来るようになっている。日付やお名前は職員2名以上で確認し内服の際は日付と名前を読み上げて誤薬のないよう努めている。症状の変化の際はナースにも報告相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	モップ掛けや洗濯物たたみなどのお手伝いをして頂いている。季節ごとの行事やレクリエーションにも参加して頂き、散歩や外出、外気浴なども計画して気分転換の支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様の希望に沿って施設周辺の散歩や買い物に出掛けている。お花見や買い物ツアーなども計画し、出掛けられるよう支援している。	駐車場にベンチ・テーブルセットを用意してのひなたぼっこやうたを歌いお茶を飲む時間は、利用者の楽しみの一つである。季節には、初詣、花見、七夕まつり見学等出かけている。職員と、洋品店、電気店等に買い物に出かける機会もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で預かり金としてご家族様より頂いている。希望に応じて必要な物品を購入したり、買い物などの支援をして金銭管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればご家族様や大切な人への電話や手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、居室やホール、玄関、トイレなどの清掃を行い、居心地良く過ごせるような環境美化に努めている。季節感を感じて頂けるよう季節毎に壁面や飾りつけにも工夫している。	フロアには、メニューボードに献立が記入されており、書き写している方もいる。季節には、ひな人形や五月人形が飾られている。廊下は、広く車いすでも楽にすれ違える。ベンチが置かれており、ひなたぼっこをしながら会話を楽しむ利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間にはソファを設置し、気の合った利用者様同士で談笑して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや馴染みのもの、好みのものを持ち込んで頂き、ご本人様に居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。	居室は、掃き出し窓でベランダにすぐ出られる。筆筒や家族の写真を持ち込んだり、観葉植物の水やりや位牌の水換えを続けている方もいる。清掃は、毎日職員と可能な方は一緒に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不要なものや導線の妨げになるようなものは避け、安全に出来るだけ自立した生活が送れるよう工夫している。また、トイレや浴室には認識しやすいように表示をしている。		